

講義名	社会開発論			授業形態	
担当教員	小川 実紗	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

「社会開発」(social development)という言葉は、経済的な発展だけでなく、土地の物理的な適成を指す場合もあれば、人材育成の意味を含むこともある。そのため、社会開発とは何かを捉えるためには、近現代社会における開発をめぐる諸問題について複眼的に検討する必要がある。また、社会開発について考えることは、我々の生きている社会がどのようにつくられてきたのか、これからどういった方向性に進んでいこうとするのかを考えることでもある。本講義では、社会開発をめぐるどのような摩擦や矛盾が発生し、それがいかに受容され、時に拒否されてきたのかについて、具体的な事例をあげつつ社会学の視点から検討する。

到達目標

- (1) 社会開発とはなかにかを理解し、社会の仕組みや働き、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
- (2) 日本やアジアにおける社会開発の様々な事例を理解することで、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。
- (3) 経済成長に伴う負の側面を考えることを通して、財やサービスの流通に関わる社会の構造と変動、およびそれをもたらす人間の行為・行動を解き明かすことができる。
- (4) 社会開発について自分なりの意見を持つことができる。これを通して、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

提出課題

授業内で随時レポートを課す。また、学生の主体的な取り組みとして自学自習レポートを常に受け付ける。自学自習レポートの提出は任意であるが、内容と提出回数に応じて評価に加点する。15回終了後、期末レポートを実施する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

業内で適宜コメント・応答し、授業内容に反映する。

評価の基準

レポートでは、授業内容についての基礎的な内容理解が達成されているか、授業から理解した視点や概念を用いて、自ら社会開発にまつわる諸現象について考察できているかについて問う。上記評価基準は、授業内で課すミニレポート、期末レポートともに同様であるが、授業内レポートでは各トピックに対する理解と意見を求めるのに対し、期末レポートではより体系的な理解と意見が求められる。

履修にあたっての注意・助言他

日常生活のなかでも、社会開発の意味を意識し、改めて振り返って考えたり、社会開発に関する情報や知識を積極的に集めておくことで、授業内容についての理解をより深めていくことが期待される。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

参考文献は各回のパワーポイントのなかで別途案内する。

授業計画

1. 授業の導入：社会開発とは何か、なぜ社会開発について考えることが必要なのか。
2. 近代化と社会開発：社会の近代化について、社会開発の歴史の一面面として検討する(博覧会など)。
3. 社会開発におけるメディアの役割と影響：社会開発とメディアの関係について特にメディア・イベント(オリンピックなど)に着目して考える。
4. 社会開発の政治性 開発の主体の問題：社会開発が及ぼす権力構造と政治について考える。
5. 社会開発の政治性 開発とジェンダー：ジェンダーの視点から社会開発のはらむ問題について考える。
6. 開発と保存の問題 負の遺産をめぐる葛藤：開発や復興のなかで(特に負の)遺産はどのように位置付けられていくのか。
7. 開発と保存の問題 歴史的可き保存・歴史の価値を守ることと地域経済の発展や住民生活の利便性向上は両立可能なのだろうか。
8. 社会開発をめぐる問題 戦後日本における開発主義、戦後日本における開発主義とはいかなるもので、どのような問題をはらんでいたのか。
9. 社会開発をめぐる問題 環境破壊と公害問題、社会開発が抱える負の側面に焦点を当て、開発の弊害について考える。
10. 社会開発をめぐる問題 公害・環境被害地域の再生活動、起きてしまった公害・環境問題に対して我々は何ができるのだろうか。
11. 社会開発の「持続可能性」 エコ・ツーリズム：ツーリズムの視点から社会開発の「持続可能性」について考える。
12. 社会開発の「持続可能性」 地域再生・まちづくり：持続可能な開発に向けた取り組みとして、地域再生・まちづくりの実践について検討する。
13. 社会開発の「持続可能性」 復興と社会開発：震災後の地域再生を通して、社会開発におけるコミュニティが持つ意義について考える。
14. SDGs(持続可能な開発目標)とこれからの社会開発：今後の社会開発が示す方向性と新たな実践(フェアトレード、エシカル消費など)について考える。
15. 授業の総括：社会開発を通して我々の生きる社会のあり方と未来について考える。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

社会開発についての考え方や知識を身につけるためには、講義内容についての予習・復習(レジュメおよび参考書に目を通す)を行ってほしい(週に3時間以上)。また学生の主体的な取り組みとして 自学自習を常に受け付ける。講義内容に関連する新聞・雑誌記事についてのレポート、関連書籍の書評など自習の成果の提出を受け付け、評価に加点する。様式は自由だが、必ず出典を明記すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目では、社会開発にまつわる諸現象とそこから生じる問題を社会学の視点から考える。こうした視点を得ることは、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」、「情報分析力」、「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ryuka Portal」を通して行う。また授業内では社会開発についてより分かりやすくイメージしてもらうために、レジュメやパワーポイントとあわせて、映像資料も積極的に使用する。社会開発とはいかなるもので、我々の社会と開発はどのような関係にあるのかを意識しながら、映像資料(社会開発に関する歴史映像やドキュメンタリーなど)を視聴することで、講義内容への理解がより深まることが期待される。

実務経験の有無及び活用

備考